

# AI 機械学習と規制： 自動運転車両のケース

道路から鉄道、海運にいたるまで、近年の技術は、無人運転の車、列車、船舶等の自動運転車両に進歩をもたらしている。これらは「Autonomous Vehicle (AV：自動運転車両)」として知られ、安全性とアクセシビリティの向上を約束するが、同時に、懸念の種ともなる。潜在的リスクは、データの質と代表性、AI モデルの開発と検証、車両を利用する移動の増加、土地利用の影響、そして車両操縦者の能力低下につながることである。

自動運転交通の可能性を安全に、かつ最大限に活用するためには、これを補佐する規制が、安全面でも社会全体の利益に貢献する能力という面でも、AVは信頼に値するということを明確に示せなくてはならない。

本報告書は、これらの問題に対応する規制的アプローチについて、特に道路車両に焦点を当てて検証する。そして、AI ベースの自動運転交通システムについて共通の理解と、安全性と社会的受容性を高めるための組織的かつ規制的な行動の基礎となるべき原則を提供する。

## 政策提言

- AI の規制的・組織的対策の基礎を共有された基本原則として設置する。
- AI は説明可能な状態であり続け、訓練データは透明で検証可能な方法で収集され、取り扱われることを保証する。
- 自動運転車両からの安全関連データの報告を義務付ける。
- AV テストのシナリオと手続きを開発しアップデートする。
- 安全な AV を支える物理的及びデジタルインフラを整備する。

本資料（仮訳）は OECD 国際交通フォーラムが翻訳したものではないため、OECD 国際交通フォーラムの公式翻訳とはみなされない。原文と仮訳の間に相違がある場合は、原文のみが有効である。